

2010年11月9日  
大日本スクリーン製造株式会社

## 2011年3月期 第2四半期決算説明会

・2011年3月期の通期業績予想では、下期の売上高が上期実績よりも増加（+341億円）するが、営業利益は、8月に発表した予想を据え置いた理由は？

2011年3月期第2四半期累計業績につきましては、利益面で8月に発表した業績予想を上方修正する結果となりましたが、下期につきましては、半導体機器事業については良好な事業環境が続くと予想しているものの、FPD機器事業およびメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業については不確定要素があることから、基本的には、8月発表の業績予想を踏襲する形とさせていただきます。

・中長期を見据えた財務戦略は？

2011年3月期第2四半期末の自己資本比率は、29.7%と前期末比ほぼ横這いを維持しております。また、有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債は、前期末に比べ126億円減少し、332億円となりました。今後も、有利子負債の圧縮に努め、自己資本比率のさらなる向上に取り組んでまいります。

・印刷関連機器事業の状況について教えてほしい。

先進国から新興国への需要シフトや電子媒体の普及など、印刷業界を取り巻く環境は大きく変化しています。当社においては、海外向けのCTP装置やPOD製品の販売台数は回復してきていますが、為替環境の悪化が事業の業績に影響を及ぼしています。このような状況の中、当社では、中国子会社でCTPの生産増強、POD製品の販売体制強化、国内外の販売体制の効率化を進め、印刷関連機器事業の収益改善を図ってまいります。